

事業名	ゆんぬヘルスツーリズム推進事業 ※「ゆんぬ」…「与論」																														
事業年度	平成21年度																														
事業目的	長寿食材を活用した「食」,「タラソテラピー」など健康をアピールする観光素材に加えて,ウォーキングコースを整備することにより,「ヘルスアイランド」のイメージを強化し,「健康」を切り口にした新たな旅行商品の造成を行うことにより,観光客誘客の拡大を目指す。																														
事業内容及び事業成果	<p>1 事業内容</p> <p>(1) 与論町ヘルスツーリズム推進協議会の設置及び開催</p> <p>(2) 講演及び説明会等の開催</p> <table border="1"> <tr> <td>開催日</td> <td>平成21年5月17日</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>6名(行政,観光協会)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「ヘルスウォーキングによるまちおこし」 長崎県立大学 西村教授</td> </tr> <tr> <td>開催日</td> <td>平成22年2月12日</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>10名(観光協会,宿会,行政等)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「ストレス軽減効果の検証」説明会 長崎県立大学 西村教授</td> </tr> <tr> <td>開催日</td> <td>平成22年3月22日</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>20名(観光関連業者)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「観光の現状と今後の与論観光について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏</td> </tr> <tr> <td>開催日</td> <td>平成22年3月23日</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>8名(民宿,観光協会等)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「民泊(農泊)と民宿について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏</td> </tr> <tr> <td>開催日</td> <td>平成22年3月26日</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>25名(商工会青年部,女性部等)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「あまみ観光から見えるヨロン観光について」 (財)日本交通社 小池氏</td> </tr> </table> <p>(3) ウォーキングコースの整備(業務委託) 案内看板や指示柱の設置</p> <p>(4) ウォーキング大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日:平成21年11月15日(参加者:島内外から約300名) ・ カロリー計算した弁当の販売,薬草茶・薬草風呂の提供,アンケート調査の実施 ・ ウォーキング実施前後のストレス解消等の癒し効果の調査の実施(対象:45名) <p>(5) ヘルスツーリズム商品造成に係る観光客の受入 等 農協観光ヘルスツーリズム体験受入(2回実施,参加者25名) キビ刈り,黒糖づくり,食材探索(薬膳料理等)など</p> <p>2 事業成果</p> <p>(1) 距離及びコース案内指示柱等を設置したことにより,所要時間の設定等が可能になり,以前にも増して町民の健康志向が増した。</p> <p>(2) 目指すグリーン・ブルー・ヘルスツーリズムを盛り込んだシーズンオフの寒い時期の体験旅行については,奄美全体と隣県の沖縄との違いを明確にした商品化が必要である。</p>	開催日	平成21年5月17日	参加者	6名(行政,観光協会)	講演	「ヘルスウォーキングによるまちおこし」 長崎県立大学 西村教授	開催日	平成22年2月12日	参加者	10名(観光協会,宿会,行政等)	講演	「ストレス軽減効果の検証」説明会 長崎県立大学 西村教授	開催日	平成22年3月22日	参加者	20名(観光関連業者)	講演	「観光の現状と今後の与論観光について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏	開催日	平成22年3月23日	参加者	8名(民宿,観光協会等)	講演	「民泊(農泊)と民宿について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏	開催日	平成22年3月26日	参加者	25名(商工会青年部,女性部等)	講演	「あまみ観光から見えるヨロン観光について」 (財)日本交通社 小池氏
開催日	平成21年5月17日																														
参加者	6名(行政,観光協会)																														
講演	「ヘルスウォーキングによるまちおこし」 長崎県立大学 西村教授																														
開催日	平成22年2月12日																														
参加者	10名(観光協会,宿会,行政等)																														
講演	「ストレス軽減効果の検証」説明会 長崎県立大学 西村教授																														
開催日	平成22年3月22日																														
参加者	20名(観光関連業者)																														
講演	「観光の現状と今後の与論観光について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏																														
開催日	平成22年3月23日																														
参加者	8名(民宿,観光協会等)																														
講演	「民泊(農泊)と民宿について」 県観光プロデューサー 奈良迫 英光氏																														
開催日	平成22年3月26日																														
参加者	25名(商工会青年部,女性部等)																														
講演	「あまみ観光から見えるヨロン観光について」 (財)日本交通社 小池氏																														



【ウォーキングコースの看板】



【ウォーキング大会の様子】

イ ア以外での自主的な取組

「長寿・子宝」のまちづくりの促進	
子どもから高齢者まで各世代に応じた食についての学習の場	・地場産食材を活用したおもてなし料理講習会等(H22年度)(町商工観光課書体)
食に関する教育, 保健福祉, 農林水産等の関係者の協議会	・ゆんぬわくわく推進協議会(H16~20年度)

「長寿・子宝」産業の振興										
市場ニーズ調査による素材の掘り起こし実施	・与論町特産品開発グループ・生活研究グループが開発した商品(もずく, とうがん等活用)の販売の支援(町及び観光協会主体)									
直売所の設置	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">直売所の設置数</th> <th rowspan="2">直売所の名称(25年度)</th> </tr> <tr> <th>16年度以前</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2か所</td> <td>2か所</td> <td>まごころ市場 みのり市場</td> </tr> </tbody> </table>		直売所の設置数		直売所の名称(25年度)	16年度以前	25年度	2か所	2か所	まごころ市場 みのり市場
直売所の設置数		直売所の名称(25年度)								
16年度以前	25年度									
2か所	2か所	まごころ市場 みのり市場								

癒し・健康にあふれる観光の振興	
健康・長寿・癒し体験観光プログラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・パナウルウォークの開催(参加者400名) ・ノルディックウォーク講習会(参加者20名) ・ストレス軽減の効果検証(参加者38名)

(注) 上記は, 平成25年度に県が奄美群島内の市町村を対象に実施した「あまみ長寿・子宝プロジェクトの成果等に関する調査」で把握した各市町村における取組のうち, あまみ長寿・子宝プロジェクトにおいて実施された事業を除く取組である。

プロジェクト関連の主な取組実績例

- タラソ施設(奄美の竜宮)整備
- 「健康まちづくりリーダー」の活動
- レシピカード集の作成
- 特産品(「あまみ弁当」「あまみムラサキ」)の創出
- 地域おこしNPO・住民グループ多数
- 健康体験プログラムの確立
- 一集落1ブランド認定

- タイモ等の長寿食材を使用した特産品の開発
- タイモ料理の普及促進(レシピ集の作成等)
- 地場産食材を学校給食へ提供

- すもも、たんかんを使用した特産品の開発
- 特産品PR活動
- 地場産食材を学校給食へ提供
- レシピ集の作成(行事食と季節の料理)

- 一次産業振興を核にした着地型観光メニューの開発
- 長寿食材を使用した食の伝承講座
- 1ターン受け入れによる地域活性化

- 鳥じゅうり伝承委員による郷土料理の伝承
- レシピ集の作成(伝統食, 行事食)
- 八月踊りDVDの作成(21集落), 学校や地域運動会での活用
- ごまを使用した特産品の開発

- 長寿・子宝のまちづくりを推進するための人材育成のモデル町(アカデミー, 五十人委員会等)
- 子宝バンドの編成
- 子宝地域づくり推進委員会(野茶坊ゆらおう会)
- 童子八月踊り研究会

- われんきや広場の活動(安心して妊娠・出産・子育てできるまちづくり)
- シマアザミを使用した新特産品の開発
- エコツアーガイドの組織及び枠組づくり

- 長寿料理の普及啓発(ケーブルテレビ, 広報誌)
- レシピ集の作成(伝統食)
- 民泊観光の受入体制の構築
- 子宝三味線クラブの活動

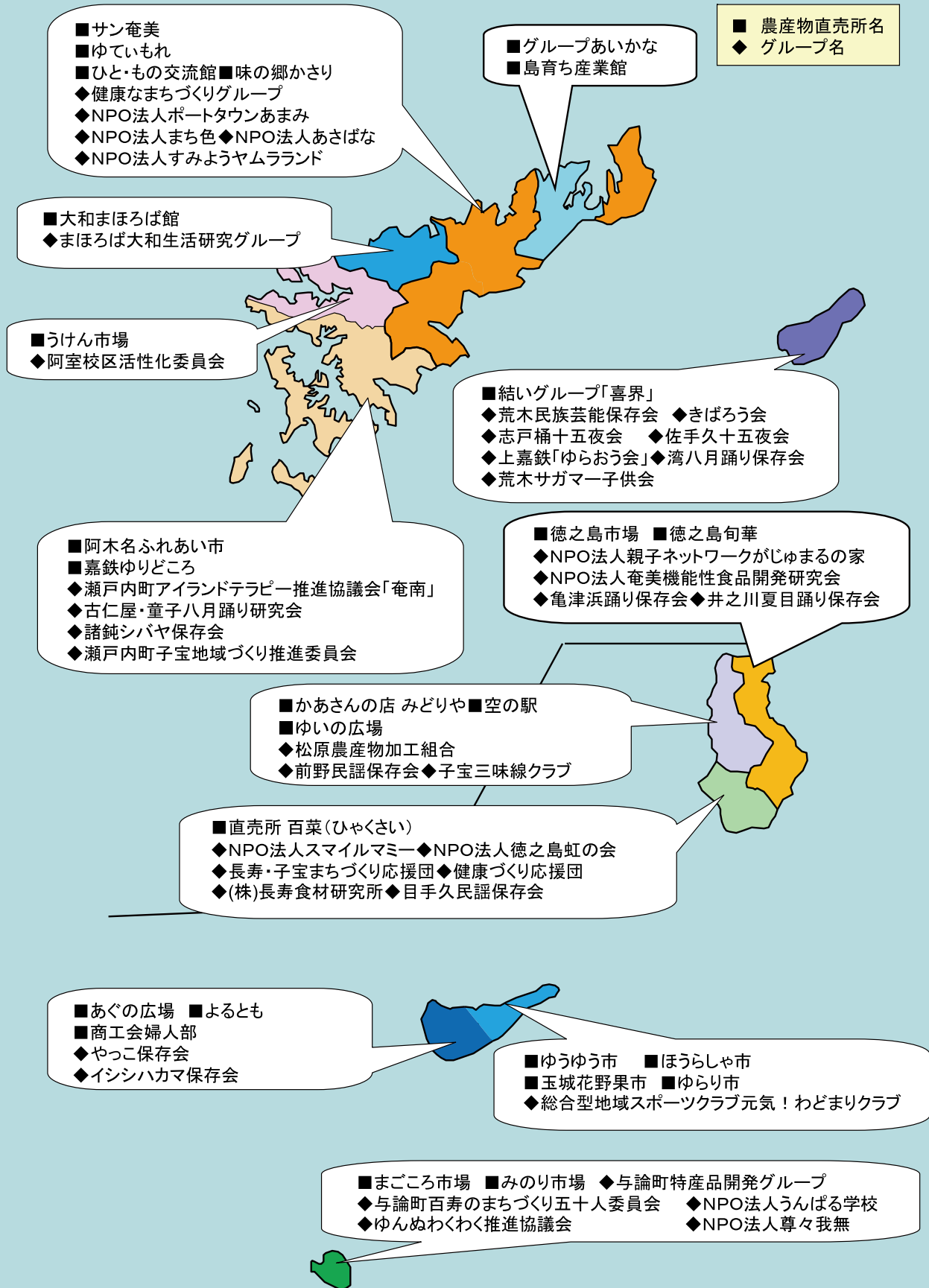
- 「長寿・子宝」シンポジウムの開催
- 健康増進施設「ほーらい館」のオープン
- 公設直売所「百菜」の設立
- 長命草(まあざく)の契約農家の生産組合の設立
- 徳之島ダイエットアイランドツアーの実施
- レシピ集の作成(伝統食, 行事食)
- 「健康長寿いせん」に向けた食農教育の実施
- 健康づくり応援団の育成

- 海沿いウォーキング
- 地場産食材を学校給食へ提供
- 食文化の継承と生活習慣病の予防等のための各種研修会の実施

- タラソ施設を活用した健康教室(健康づくりプログラムの作成)
- レシピ集の作成
- 郷土料理を学校給食へ提供
- 「月見で野あしび」の開催(伝統文化の継承等)

- 長寿・子宝のまちづくりを推進するための人材育成のモデル町(アカデミー, 五十人委員会等)
- ヘルスツーリズムの推進(ウォーキングコース整備, ウォーキング大会)
- レシピ集の作成(伝統料理)
- 観光関係者への料理教室

主な民間の地域おこしグループ



3 推進協議会委員からの意見等

協議会名	推進協議会委員からの主な意見
H18年度 第1回 (H18.5.22)	<p>【まちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民が中心となって自主的に活動していくためには、行政の役割、仕掛け、コーディネートが重要である。 ・ 今のまちづくりは、商店街の活性化、農業、観光だけでは無理であり、トータルでまち全体の事業プランを立てる視点が必要である。 ・ 今、まちおこしで集客できているところは、今までのインフラ・手段に頼らず自分たちで事業形態をつくって営業をかける新しい展開方法に変わっている。 <p>【観光振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年検証された島唄・島踊りが旅行会社にとっては一番魅力的であり、やっつ楽しかったことが一番重要である。 ・ 長寿・子宝、景観、自然、奄美独自ののどかさなど物語性を全面に打ち出したソフトづくりが必要である。 ・ 一過性の旅行者ではなく、継続性を考えるなら、本当の奄美ファンを作っていくことが大切である。島唄・島踊りで体を動かし汗をかいってもらうことにウエイトをおいて広める必要がある。 ・ タラソや島唄・島踊りなどそれぞれ検証等を部分的に行っているが、最終的にはアイランドセラピーという、トータルで付加価値がはっきりとある観光商品になることを狙っている。 ・ 団塊の世代を意識した中で、プロジェクトの効果を出して、2週間くらいのプログラムを組んでみるのも必要である。(食材、タラソ、島唄・島踊りなどの総合的なプログラムを対象) <p>【産業振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長寿と癒しを考えてブランドづくりをする上で、食材のルーツ、背景などと併せて物語、ドラマを入れて欲しい。 ・ 他の事例をみながら、ブランドが何かということや自分たちのもっているものが宝であることを再度認識する客観性と事例の組合せが必要である。
H18年度 第2回 (H19.1.26)	<p>【まちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内町の地域定住については、佐賀県武雄市のエコビレッジ構想を参考にしてほしい。 ・ 早世の問題で、若い人をターゲットに具体的にアクションをおこしていかなければならない。それがなければ、長寿観光、ヘルスツーリズムということに説得力がなくなる。長寿・子宝のまちづくりと産業化・観光化は車の両輪だということをもう一度認識してほしい。 ・ 平成20年度から国保保険者の特定検診・特定事後指導が義務づけられるので、これを最大限活用することが大事である。 <p>【観光・産業振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京の女性はヘルス嗜好が高い。長寿食と生活の企画内容を提案するプログラムを組めばお客も来る。 ・ 子どもの事業に関しては、プログラム内容がはっきりわかるものにし、体験活動については、教育的内容を含んで欲しい。奄美に行って何か付加価値になるものを持ち帰ってくるのがPRになる。
H19年度 第1回 (H19.7.17)	<p>【まちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このプロジェクトは保健福祉部だけで出来るものではない。県全体が横断的にどこまで本腰を入れてやるかが重要である。 ・ 奄美以外の全県域、我が国が危機感を持つ必要があると思っている。これは2015年問題（団塊の世代が高齢期に入る時期）、2025年問題（団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる時期）がある。この時期をピークにして、我が国のいろいろな人間の行動や価値観、国内の流通等が大きく変わると思う。この時に国民が何を考え、何を目指して動いていくのかが大事である。 ・ 奄美は超少子化高齢者社会モデルになっており、単に、奄美群島の振興にと